

アメリカ・イスラエルによるイラン攻撃に抗議し即時中止を求める決議

アメリカとイスラエルは2月28日、イランに対する大規模な攻撃を開始した。

トランプ米大統領は、イラン政権を「巨大なテロ組織」と決めつけ、イラン国民に対して「自分たちの政府を乗っ取れ」として、体制転覆を公然と呼びかけ、軍事侵攻を行っている。

独立した主権国家の最高指導者を殺害する権利は、他国のトランプ米大統領に与えられているものではなく、国連憲章と国際法を乱暴に蹂躪する無法な先制攻撃であり許されるものではない。グテレス国連事務総長はじめスペインのサンチェス首相など、世界中から批判の声が起こっている。

アメリカが「大規模かつ継続的」な攻撃を行なうならば、中東と世界の平和と安定に深刻な打撃をもたらすことは必至である。

イランによる報復攻撃も湾岸諸国に拡大しており、軍事的エスカレーションを引き起こす事態は絶対に阻止しなければならない。

既に双方に多数の死傷者が報道されている。またホルムズ海峡の封鎖で世界的規模の流通や経済に影響を及ぼしている。

よって本議会は、トランプ米政府の軍事介入に対し抗議し、直ちに攻撃を中止し、交渉による解決に立ち戻るよう求める。

以上、決議する。

2026年3月19日

太子町議会議長 村井 浩二